

楽しいスポーツが一番魅力的です

スポーツは芸術の 1 つ

私にとってのスポーツはアスリートとしてのものでした。根底に『健康』があったのかもしれませんが、勝ちたいという姿勢がすべてだったといっても過言ではありません。また、スポーツは芸術の 1 つであるとも考えています。好きだからこそ打ち込むことが出来るのです。

私はダンス種目が出来ません。動作が不格好すぎて、想像しただけで赤面します。スキーも大嫌いです。わざわざ寒いところに行く気がありません。写真も撮れないし、絵画もうまく描けません。写生の時間が大嫌いでした。カメラで撮影したら寸分違わず風景を描写できるのにと考えていました。カラオケで歌うことは好きですが、作曲する才能はゼロです。いわんや楽器を演奏する力は子供のレベルから上達していません。口笛が吹けるくらいです。本当に好きなことしか夢中になれないということが明白な事実なのです。

つまり、健康のために何かしようとしても、そのことが楽しいと思わなければ、長続きしないし苦痛になってしまうでしょう。私はゴルフが大好きでした。肋骨を疲労骨折するほど打ち込んでいました。しかし、ある大学生アスリートゴルファーとラウンドする機会があり、自分の限界を悟りました。ゴルフは趣味にとどめておくべきものでした。ボーリングも得意で、マイボールを 2 個持っています。ゴルフの授業で教えたことのある、Pリーガーのプロからもらったものです。そのボールを使って投げた私のハイスコアは 257 です。しかし趣味の域を超えるわけがありません。

私も 66 歳になりました。東海学園大学に赴任して 12 年です。その間、講義科目を担当してきました。実技科目は全くありませんでした。しかし今年の秋学期から、バレーボールを 2 コマ担当できることになりました。不安もありますが、実際に自分自身のプレーを通して、スポーツの持つ魅力に浸りたいと期待しています。秋学期の私を見ていてください。体育館のコートで楽しそうに、バレエではなくバレーボールをやっている私の姿があるはずです。

最後にグラウンドゴルフの魅力について記します。ゲートボールも面白いスポーツでしたが、自分の失敗でチームが負けることもあり、責任感を大きく感じます。笑顔が見られることはほとんどありません。待ち時間の多さと運動量の少なさも弱点でした。しかし今のグラウンドゴルフの流行は素晴らしいものです。

お洒落をして、身なりに気を払い、同性・異性を問わず、自分のボールを、高価な自慢のスティックで軽快な音とともに飛ばして、ゴールまでの打数を競い合うスポーツです。健康で文化的な最低限度の生活を営むために、『ときめき』も寄与しているのは、嬉しいことに事実です。見るスポーツも面白いものですが、実際に自分でやるスポーツはさらに面白く、健康に役立つ重要なツールだと実感しています。昨年まで、『グラウンドゴルフなんて』と思っていましたが、私も絶対夢中になるという確信があります。

文責 金尾 洋治 (スポーツ健康科学部)